個から集団へ　―仲間づくりの取組み―

太平洋学園高等学校　教諭　平松　民・西岡　奈帆子・菅原　洋子

昨年度、少人数制ピア・サポートプログラムの導入による仲間づくりの活動を試行し一定の成果を得た。それを受けて、今年度は対象を少人数制から個別支援コースに在籍する生徒全員に広げ、より多くの生徒に対して新たな仲間づくりの活動を試行した。個別支援コースに在籍する生徒は、それぞれが対人関係になんらかの不安があり、集団の中で過ごしにくさを感じている。そこで本研究では「居場所感」という概念に焦点をあて、生徒が個から集団へと移行していく過程についての研究を行うこととした。

個から集団へと移行するプロセスや心理的な変化は生徒個々によってさまざまではあるが、本研究を通して学校が「自分が受容されていると感じられる安心する場」として位置づけられたと考えられる。また、「居場所感」を獲得するためにも、卒業までに人とかかわる機会を増やし、自信を回復する経験を積み重ねることで、安定した人間関係を築く土台としてもらいたい。

キーワード：仲間づくり、個人的居場所感、社会的居場所感